

アカムツ・アカアマダイ生態情報収集事業

(栽培漁業総合推進委託事業 (新たな栽培対象種の技術開発促進))

松本洋典・金元保之・寺門弘悦

1. 研究目的

経済的価値が高く栽培対象種としてニーズが高いアカムツおよびアカアマダイについて、種苗生産技術の開発にあたり、自然界における生態等を把握する。

2. 研究方法

(1) アカムツ資源量の推定

資源添加前の日本海南西海域におけるアカムツの資源量を推定した。推定には前年度までの調査で得られた、漁獲統計資料 (浜田市場と山口県下関市場の沖合底びき網漁業 (沖底) により水揚げされたアカムツの銘柄別漁獲量)、市場ごとの銘柄体長キーおよび年齢体長キーを用いた。山口県下関市場に関するデータは山口県水産研究センターから提供を受けた。今年度は、沖底の漁獲成績報告書から得られたアカムツ CPUE を資源量指標値として用いたチューニング VPA を行い、アカムツ資源量を推定した。

(2) アカアマダイ資源量の推定に係るデータセットの再検討

前年度は県西部の沖底が漁獲対象とするアカアマダイ資源の推定を行った。今年度は日本海南西海域全体の資源量を推定するためのデータセットについて検討を行った。同一漁場を利用する山口県とのデータ共有を意図して、同県での先行研究 (体長-性比関係¹⁾、季節別 ALK²⁾) を適用できるデータ形式となるよう、浜田市場に沖底により水揚げされたアカアマダイ漁獲統計資料について、集計方法の変更を検討した。

(3) アカアマダイ放流効果の検討

島根県東部で 20 年間実施しているアカアマダイ種苗放流の効果を取りまとめた。

3. 研究結果

(1) 日本海南西海域におけるアカムツ資源量

チューニング VPA によるアカムツの推定資源量を図 1 に示した。2014 年漁期以降、資源尾数・資源量ともに急激に増加していることが明らかとなった。

(2) アカアマダイ漁獲統計資料

アカアマダイ漁獲統計資料を季節別に集計することで、先行研究に対応したデータセットを整備した。

今後両県データを統合することで正確な資源変動を把握できる可能性がある。

(3) アカアマダイの放流効果

本種は放流地点から大きく移動しないこと (図 2)、放流密度の低減が回収率を高める可能性などが明らかとなった。

4. 研究成果

本研究で得られた結果は、令和 3 年度栽培漁業総合推進委託事業の成果報告会で報告された

なお、本事業は令和 3 年度で終了となるが、両種の資源評価に関しては「主要底魚類の資源評価に関する研究」で引き続き対応していく。

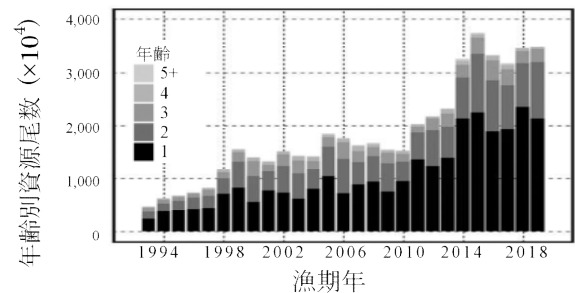


図 1 日本海南西海域におけるアカムツの推定資源尾数の推移

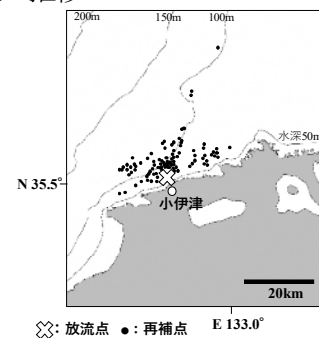


図 2 島根県東部のアカアマダイの標識放流における再捕地点

5. 引用文献

- 1) 林 泰行. 山口県外海水産試験場研究報告 1985; 20: 1-95.
- 2) 河野光久、天野千絵. 山口県水産研究センター研究報告 2020; 1-8.